

商学部長挨拶

商学部長・商学部教授
渡辺 達朗

皆さま、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、商学部長の渡辺達朗と申します。本日はこのような多くの皆さまに商学部会計学科を中心とした会計教育100周年、会計学科50周年の記念式典にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。先ほどご紹介いただきましたように、式典は記念講演、シンポジウム、祝賀会まで、長時間にわたりますが、お時間の許す範囲でご参加いただければと思います。

先ほどもお話がありましたように、商学部は2020年に神田神保町の地に移転することになっています。その予定校舎をモチーフにして、本記念式典のチラシを作成しました。こういった建物が、靖国通りに面した校地に、今、着々とつくられています。16階建てで、16階、15階には学生や卒業生の皆さま、関係者の皆さまが集えるようなスペースもありますので、ぜひ2020年には改めて、またこの完成後の姿を見に来ていただければと思います。

本日は、会計学科を中心とした商学部の卒業生、校友の皆さま、会計関係の学会の皆さま、本学出身の公認会計士、税理士の皆さま、あるいは在校生の皆さま、非常に多くの方がたにお集まりいただき、会計をキーワードにしたつながり、ネットワークの強さを実感しております。私は残念ながらというわけでもないのですが、商学部の中のもう一方の学科の、マーケティング学科に属しているのですが、常日頃から会計学科の先生がたの結束の強さを拝見してうらやましいなと思っています。それがこのように多くの皆さまにお集まりいただくというかたちで体现でき、商学部にとって嬉しくあり、心強くもあります。

ちょっと裏話をすると、このように広い教室を使用しておりますが、ここをあえて選んだというのでは実はないのです。本日は、学園祭などさまざまな行事がある関係で、この10号館という建物で適当な教室がここしか空いていなかったわけです。こんな広い教室をどうやって埋めればいいのかと冷や冷やものだったのですが、会計学科の先生がたが協力しあって多くの卒業生や学会関係者の方がた、在校生の皆さまにお声掛けいただいたおかげで、このように教室を十分過ぎるくらい埋めることができ、本当に良かったなと思っています。今日のこの日をきっかけにして、これから新たな100年に向けた一歩を踏み出していかなければならないと思っています。

さて、今後の商学部における教育を考えると、会計学に限らず社会科学の分野全般で言えることだと思うのですが、AIつまり人工知能に負けない人材をいかに社会に送り出せるかということが重要だと思っています。単純労働でも頭脳労働でもAIに置き換えられていく部分があるといわれていますが、両者の中間的な部分で、人間ならではの部分をいかに育てるかというのが、私たちのような実学教育の分野では重要な課題になっていくのだと思います。このところAI関係の教育の本、たとえばAI研究の第一人者の新井紀子先生の本などを立て続けに読んだのですが、そこにはAIにできないことで、読解力というのがAIにはかなわない人間ならではの能力であり、いかに読解力を付けるかというのが大事だと指摘されていました。その延長で、商学部の教育のあり方を考えると、単にテクニカルな部分を身に付けてもらうだけではなく、社会の中でさまざまなステークホルダー

の方がたと関係を築き、コミュニケーションしていくことができる人材を世に送り出すかということが大きな課題になっているのだと思います。そうしたことを含めて、卒業生の方がた、会計関係の学会の先生がたには、さまざまな応援をしていただきたいと考えておりますので、今後も引き続きよろしく願い申し上げます。

最後になりますが、配布資料の中に専修大学創立140周年、石巻専修大学創立30年の記念事業募金の一貫として、会計教育を中心とする商学部学生の教育充実で寄付をしていただいた方のお名前のリストを入れさせていただいております。教育の充実に使ってほしいという趣旨で寄付をいただいておりますので、そのように充てさせていただきます。この募金は現在も継続しておりますので、引き続きよろしく願いしたいと思います。

長くなりましたが、以上で私のあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。